

「おい ほう すくない ほう」 ～ おたのしみかいのグループわけをしよう ～

日時 令和2年 12月9日(水)
学年 第1学年 男子11名, 女子6名, 計17名

1 単元について

(1) 単元観

本単元で育成を目指す資質・能力、学習指導要領との関連は次のようになっている。

〈学びに向かう力, 人間性等〉

○日常生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとする態度。

〈知識及び技能〉

A (2) ア

- (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
- (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
- (エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

D (1) ア

- (ア) ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすること。

〈思考力, 判断力, 表現力等〉

A (2) イ

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

D (1) イ

- (ア) データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴を捉えること。

本単元は、具体物を操作しながら量に関わりをもつとともに算数に関心をもつ活動を行うことにより、様々な量の大きさを比べるなどの日常生活や学校生活の場面と算数の学習をつなげていくことがねらいである。そのために、量の単位を用いて測定する前段階として、身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしたりすることを主なねらいとしている。

本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ①問題文から、数量の関係を捉え、数図ブロックを使って根拠を説明したり、考えるたりする過程を言葉や図などで表現すること。
- ②数図ブロックを使って、「～は、～より○こ多い(少ない)」かを求めることができること。

(2) 児童観

本学級の児童は、学力差が大きく、課題に対して前向きに一生懸命に取り組もうとする児童もいるが、見通しを持つことが難しく、課題に集中して取り組めない児童も多い。児童はこれまでの学習で数図ブロックを用いて答えを求めたり、数図ブロックの動きを○図に描いたりして答えを求めるといった学習を積み重ねてきた。

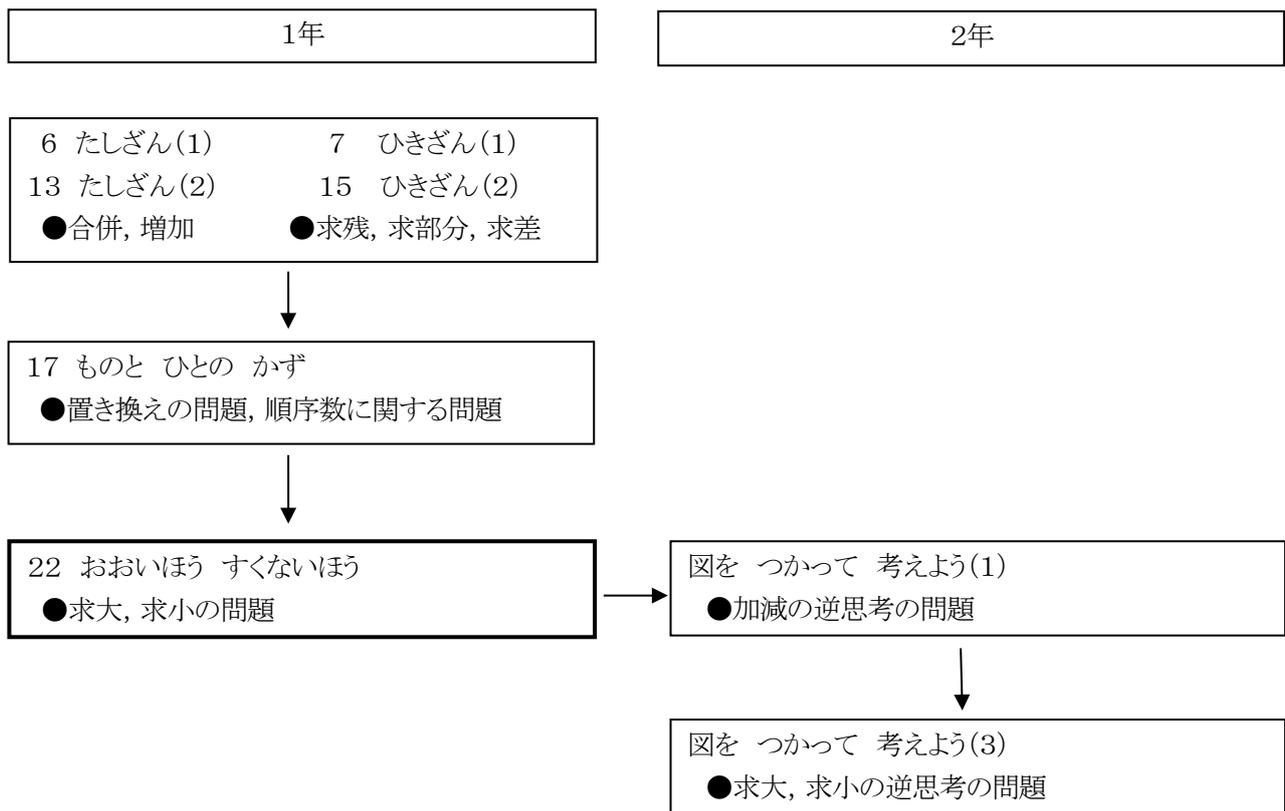
○本単元に関わるレディネステストの結果から

ひき算の場面を理解できているかをみる問題においては、問題文を読んで、ひき算を使って立式することができた児童は、48%であった。52%の児童は、分かっている部分がどこで、問われている部分がどこなのか十分に理解できていないため立式することができなかった。そのため児童は、問題文の言葉や数に着目させて、ブロックや○図を使って問題文を理解させ、立式していけるよう指導していく。

○「資質・能力」アンケートの結果から

「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」や「授業では、これまでに学習した内容が使えるか考えています。」という項目では、ほぼ全員が肯定的に答えており、クラス全体が学習に意欲的に取り組もうとする姿勢が伺える。

【本単元の学習の関連と発展】



(4) 指導観

○主体的な学びの中で表現力を高める工夫

- ・6年生とのお楽しみ会のグループ分けをするために人数の多い、少ないを学習することを単元の導入で提示することで、本単元への意欲を持たせる。
- ・全体で練り合う前に、ペアトークを行い、友達と意見を伝え合う活動を通して、自信をもって発表できるようにする。

○児童の課題を克服するための工夫

- 【視覚化】数図ブロックを操作し、それを○図に表し、問題文と関連付け言葉を書き入れることで、数量関係に丁寧に着目できるように促す。
- 【焦点化】問題を丁寧に読み、前時との違いを問うことで、前時では「～のほうが～より○こ多い」という学習を行ったが、本時では「～のほうが～より○こ少ない」という学習をするという見通しをもたせる。
- 【共有化】ペアトークの際には、数図ブロックで操作させたり、○図や立式したノートを使ったりして伝え合い、考えを整理させる。

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- 求大、求小の意味について理解し、問題を解くことができる。 (知識・技能)
- 数図ブロックや絵、式などを用いて、求大、求小の問題を考えることができる。(思考・判断・表現)
- 日常の生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①数図ブロックを並べて数量の関係を理解することができる。	①数量の関係をもとに、大きいほうの数量の求め方を考えている。 ②数量の関係をもとに、小さいほうの数量の求め方を考えている。	①数図ブロックを並べて数量の関係を捉えようとしている。

3 指導と評価の計画

(全4時間)

時	学習活動	「数学的な見方・考え方」を働かせた児童の反応	評価規準 (評価方法)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
求大の理解					
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">課題の設定</div> <p>○6年生とのお楽しみ会のグループ分けを考えることを提案することで求大・求小の学習への意欲や関心を高める。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お楽しみ会のグループ分けをしよう。</div>			態① (発言・行動観察)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">情報の収集</div> <p>求大の問題を、数図ブロックの操作や○図、式を用いて解くことができる。</p>				
2		 多い方の数は、ブロックを使ったり、○図を描いたりすると考えられる。	知① (行動観察)	思① (発言・ノート)	

		 <p>こはるさんは、たいきさんより3個多かったから、式に表すと、$5 + 3 = 8$になる。</p>			
求小の理解					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">習得の取次</div> <p>3 求小の問題を、数図ブロックの操作や○図、式を用いて求めることができる。 【本時】 1 / 2</p>	 <p>少ない方の数も、ブロックを使ったり、○図を描いたりすると考えられる。 こはるさんはたいきさんより2個少なかったから、式に表すと、$9 - 2 = 7$になる。</p>		思② (発言・ノート)	
	<p>4 求大・求小の問題を解くことができる。</p>	<p>ブロックや○図、式などを用いてとくことができた。</p>			知① (ワークシート)

4 本時の学習

(1) 本時の目標

求小の問題を、数図ブロックの操作や○図などを用いて求め方を考えることができる。 (思考・判断・表現)

(2) 準備物

問題文(黒板掲示), 数図ブロック, ワークシート, テレビ, タブレット

(3) 本時の学習展開

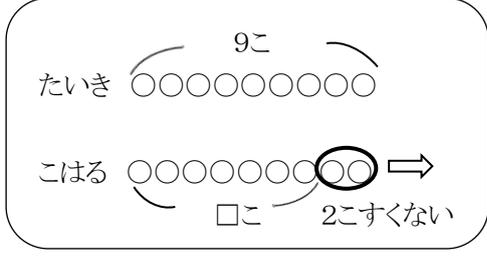
- ねらいーまとめ ○理解を助けたり, 関わりを深めたりするための支援
- ◎学びを深めるための発問

学習活動と求める児童の反応	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を設定し, 解決への見通しをもつ。		
<p>○問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんぐりを ひろいました。たいきさんは9こ ひろいました。 こはるさんは たいきさんより 2こ すく なかったそうです。 こはるさんは なんこ ひろいましたか。</p> </div> <p>○前時との学習の違いを確認する。 ・まえのじかんは「こはるさんは、たいきさん</p>	<p>○問題文を一文ずつ提示することで場面把握をさせる。【視覚化】</p> <p>○問題を配布し, 分かっている事, 聞かれている事に線を引かせる。</p> <p>○前時との違いに気付かせる。</p>	

<p>より3こおかった」というもんだいだっけれど、今日は「こはるさんはたいきさんより2こすくない」というところがちがう。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●「～は～より○こすくない」というもんだいのときかたをかんがえてんせつめいしよう。</p> </div> <p>○考え方の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロック ・図 ・式 	<p>○前時との違いに気づかない時は、前時の問題文を提示する。【焦点化】</p> <p>○めあてを大きな声で言葉に出すことで、本時の課題を明確にする。【焦点化】</p> <p>○どうやって求めるかを問うことで見通しをもたせる。</p>	
--	---	--

2 課題を解決する。

<p>○問題を読み、数図ブロックを操作する。</p> <p>○自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックを使って考える。 ・図に描いて考える。 <p>○集団解決をする。(ペア→全体)</p> <p>①数図ブロックをつかったかんがえ</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>たいき </p> <p>こはる </p> <p>こはるさんは、たいきさんより2こすくないから、2ことると7こになる。</p> </div>	<p>○最初の一文を読み、数図ブロック操作をさせる。【焦点化】 T1</p> <p>○全員が数図ブロックを置くことができているか確認する。 T2</p> <p>○続きの問題を読み、数図ブロック操作をしながら考えさせる。【視覚化】</p> <p>○ブロック操作をもとにした○図を描かせる。</p> <p>○図に数や少ないなどの問題文にある言葉を書かせることで、数図ブロックと○図と言語を関連付けて考えさせる。【視覚化】T1</p> <p>○数図ブロックをカードにしたものを手元に持たせ、○図を描かせる。【視覚化】T2</p> <p>○数図ブロック操作や○図を使って自分の考えを説明させる。【共有化】</p> <p>○児童の説明に合わせて数図ブロックの動きが分かるように板書する。【視覚化】 T2</p> <p>○まず始めに、こはるさんの数図ブロックはたいきさんと同じ数だけ出すことに気付かせる。</p> <p>○数図ブロック、図を関連付けて「～は～より○個少ない」といった言葉を使って説明できるようにキーワードとなる言葉を板書する。【視覚化】 T2</p>	
---	---	--

<p>②〇ずをつかったかんがえ</p>  <p>こはるさんは、たいきさんより2こすくないんだから、こはるさんのかずがすくない。</p> <p>③これまでの考えをもとに立式する。</p> <p>しき $9 - 2 = 7$ 答え 7こ</p>	<p>◎たいきさんのほうがすくないんじゃないの？</p> <p>○数図ブロックや○図から立式させる。</p> <p>○全体で確認したことを自分の学びにつなげる。</p> <p>○自分のワークシートに友達の考えを記入する時間をとる。</p>	
---	---	--

3 本時のまとめをし、適用題に取り組む。

<p>○今日の学習のまとめを書く。</p> <p>「～は～より○こすくない」というものだいのときは、まずおなじかずをだしてそこからすくないかずをひけばもとめられる。</p>	<p>○まとめることができない場合は、前時のまとめを提示して比較させる。</p> <p>○まとめを声に出して読ませる。</p>	
--	---	--

4 本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。

<p>○適用題を解く。</p> <p>どんぐりを ひろいました。たいきさんは、8こひろいました。こはるさんはたいきさんより 3こすくなかったそうです。こはるさんは なんこひろいましたか。〇ずをかいてかんがえましょう。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>○〇図を描いて考えさせる。</p>	<p>思②(ワークシート)数量の関係をもとに、小さいほうの数量の求め方を考えている。</p>
---	----------------------	--

4) 板書計画

12/9

おいしいほう すくないほう

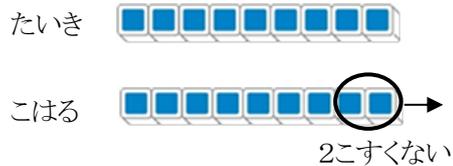
④

「～は～よりすくない」というもんだいのときかたをかんがえてんせつめいしよう。

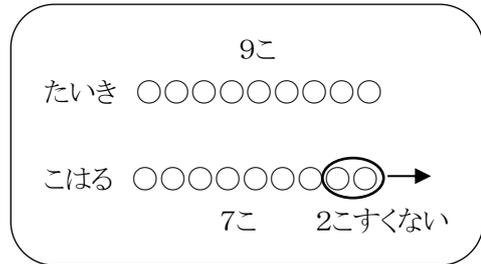
⑤

どんぐりをひろいました。たいきさんは9こ ひろいました。こはるさんは たいきさんより 2こ すくなかったそうです。こはるさんは なんこ ひろいましたか。

ブロックをつかって



〇ずをつかって



しきをつかって

しき $9 - 2 = 7$

こたえ 7こ

⑥

「～は～より〇こすくない」というもんだいのときは、まずおなじかずをだしてそこからすくないかずをひけばもとめられる。

⑦

どんぐりをひろいました。たいきさんは、8こひろいました。こはるさんは たいきさんより 3こすくなかったそうです。こはるさんは なんこひろいましたか。〇ずをかいてかんがえましょう。